

企業名： 共同印刷

レポート名： 共同印刷グループコーポレートレポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

A.理解できる点が多い。

理由：

・「成長を加速させる価値創造の源泉」において「グループ事業の拡大に向けた戦略立案や新規事業、新しいビジネスモデルの企画・推進に向けて戦略推進部を新設するなどの機構改革に取り組み、」や「変革を起こして豊かな社会と新たな価値の創造を目指す人を会社として応援するためにビジネスコンテストを開催しました。」と記されている。将来の成長戦略を実際に実行するための手段を設定してそれを顧客側に分かりやすく伝えているため非常に将来像が描きやすい。また、今後さらに重要度が増していくことが絶対視されている人的資本を効率よく活用しようとしていることが読み取れるため非常に将来的な成長が見込まれるであろうと予想できる。

・「中期経営目標」の項目において、端的に「配当性向 30%以上」「ROE 5%」「営業利益 38 億円」と目標を掲げることで、目指している位置が明確に分かりやすく伝えることができている。

・一方で、全体を通して「デジタル活用」を掲げていることが多いが、その具体的な施策についてはあまり書かれていないため、ではこの企業は結局のところ何をするのか、企業としての独自性が表れていない。この企業が本当に今後成長していくのか、業界で生き残っていくのかは結局のところ唯一の独自性があるかどうかであるにかかっているため、それが戦略の中でしっかり表せていないのでは将来像は描きにくくなってしまう。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

A.理解できない

理由：

統合報告書において他企業と自社とを比較する項目がほとんどない。企業の優位性とは同じ市場の他企業と比較したときの唯一の資源があるかどうかにかかっている。それが書かれていないのでは全く理解するには至れない。報告書の全体を通して他企業でも書ける、書かれているような内容の企業戦略が非常に多いため競争優位性を保つような資源が全くないのではないかと疑いを持ってしまうほどである。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

A.理解できるが、持続性はないのではないかとと思われる

理由：

「資本効率の向上と成長投資」の項目において、研究開発では新技術や新素材の開発に11億円投資していると記されている。市場内で持続的に競争していくための研究開発として11億円は少し少ないのではないか。研究開発に尽力していくことで企業としての独自性を高めていき、成長の機会を創出してほしい。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

A. 思わない

理由：

「人材戦略」の項目において、「キャリア開発や研修を用意する」と記されている。しかしながら、この程度の施策は他企業でも行っているため、正直なところ私がこの企業に入社したところで他企業よりも人的資本を向上させることはできないと思う。全体の分量に対してあまりにも人材戦略に関する項目の記述が少なく、人材戦略に力を入れていないように思われる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点：

人的資本の向上に向けた施策と中期目標が明確に描かれていた点は非常に良かったといえる。

改善点：

「事業環境認識と3つの成長領域」の項目においては、少人数のみが利用する公共サービスを持続的に利用させるために「IoTやビッグデータ、AI」を活用すると必要があると記されている。しかし、どう活用していくのかに関してはさほど具体的記載はなされていない。これでは結局のところ流行りの単語を使って顧客にいい印象を与えようとしているだけにしか見えずに、この企業としての熱意が伝わってこない。また、環境に関する項目内では、「プラスチックはCO₂の塊であり、」のような表現がなされている。この表現を字面のまま捉えると、この企業はプラスチックをCO₂分子で形成された固体物であるような印象を受け、報告書を読んでいる者からしてみれば化学的な知識が欠如している企業のような印象を受ける。おそらく比喩的表現としてプラスチックを燃焼した際にCO₂が多く排出されることを言いたいのであろうが、あまりにも読者の立場に立っていない表現であるため、企業側が意図していることが正しく伝わっていないように感じる。表現のわかりやすさや自社の情報を適切に提供できるような記載の方法を考え直すとよいかもしれない。